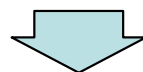
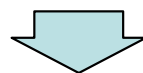


次期静止気象衛星「ひまわり」の整備・運用 PLAN

- ・「ひまわり」は安全・安心な国民生活・社会経済活動に不可欠な公共財
- ・現用衛星の設計寿命が平成27年まで。衛星製造には5年程度の期間が必要



次期静止気象衛星計画の早急な策定が必要



次期静止気象衛星計画の策定

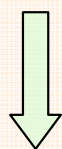
静止気象衛星に関する懇談会
(平成20年1月～平成21年1月)

次期衛星の整備・運用のあり方について、
有識者から提言

世界気象機関(WMO)
推進の全球気象観測網

2015年以降の中期計画

気象業務での利用



計画の策定



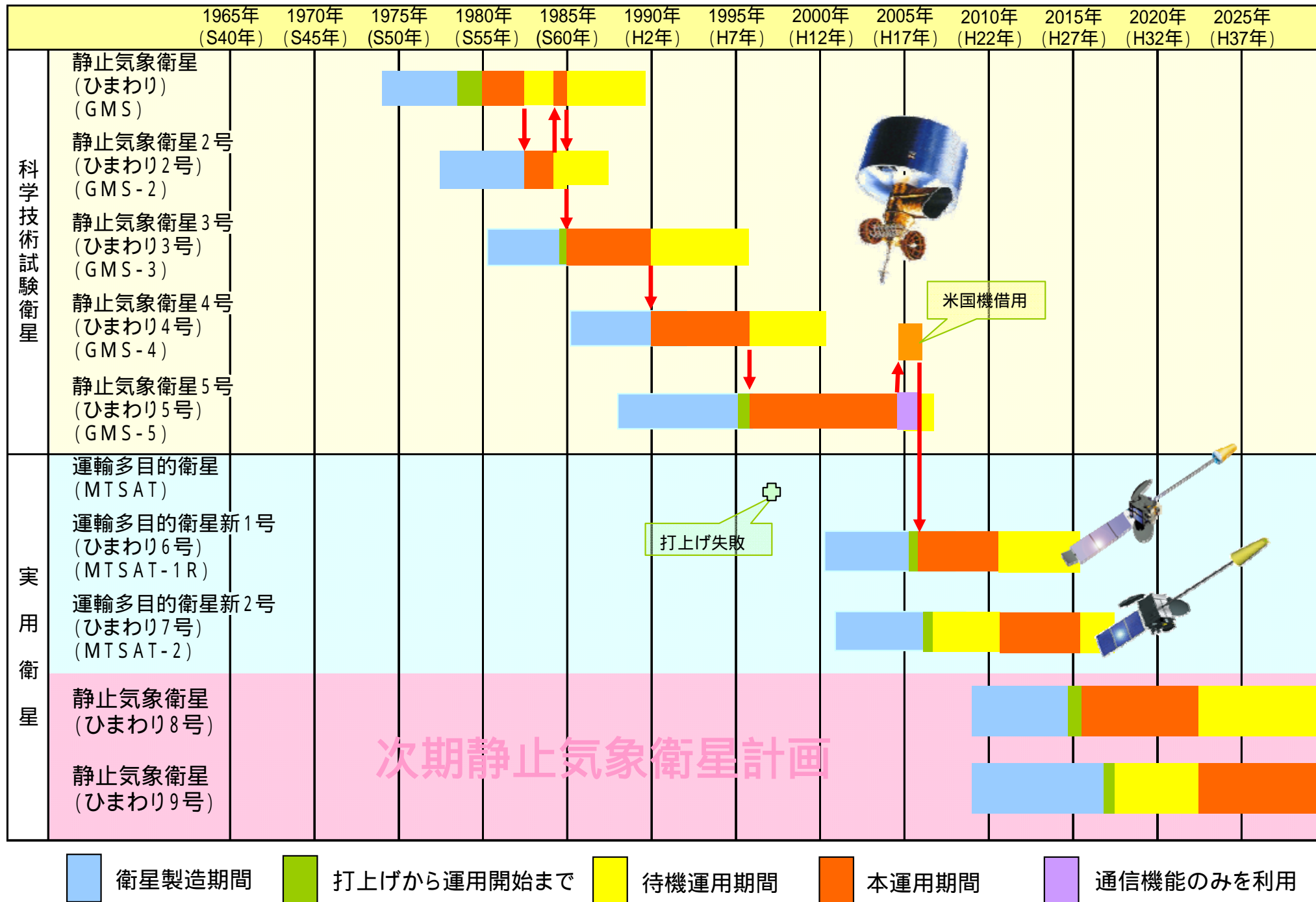
衛星の技術動向

次期静止気象衛星計画

気象衛星から地球環境観測衛星へ
各種機能の向上

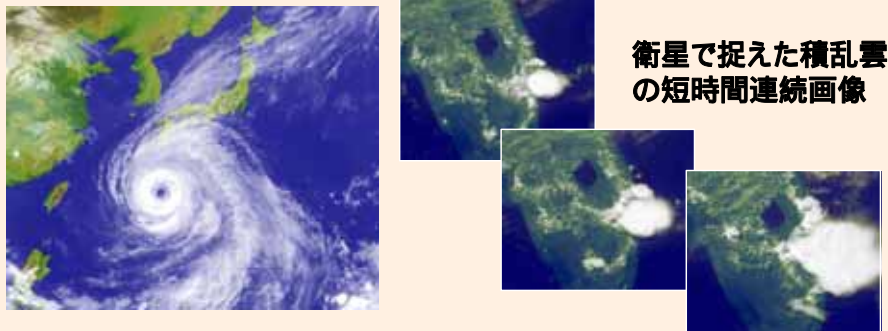
- ・分解能: 可視 0.5km 赤外 2km
- ・観測頻度: 10分間隔(全球観測)
- ・チャンネル数: 16チャンネル

次期静止気象衛星「ひまわり」の整備・運用 Do-1



台風や集中豪雨の監視

台風や集中豪雨をもたらす積乱雲を把握するとともに、数値予報の初期値に観測データを用い、防災気象情報の適時・的確な提供を実施

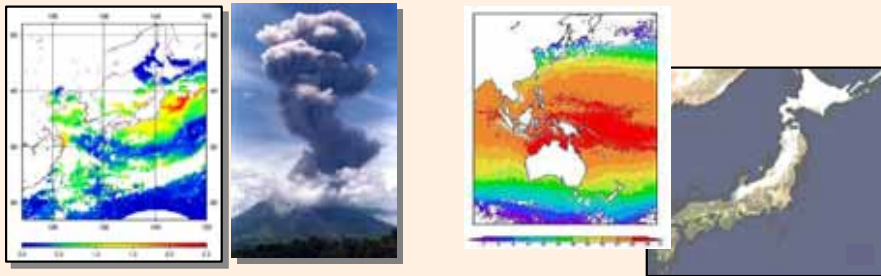


衛星で捉えた積乱雲の短時間連続画像

高分解能(可視1km 0.5km、赤外4km 2km)、高頻度(全球:30分 10分、領域:数分)で観測

地球環境の監視

多チャンネル化(5 16)により得られた各種観測データを用いて、地球温暖化や黄砂などの地球環境をモニター



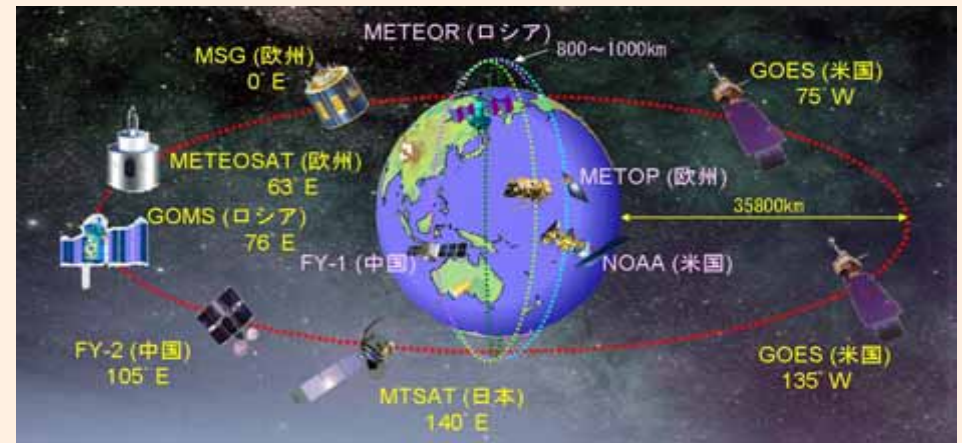
黄砂、火山灰、大気中の微粒子の移動や分布

海面水温、雪水の分布

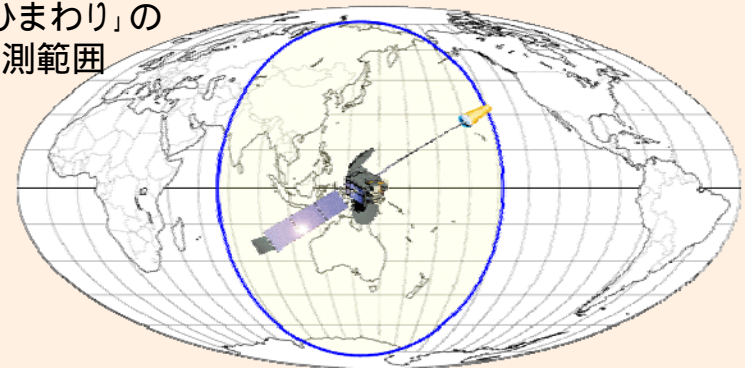
気象衛星観測網の構成衛星として運用

アジア・太平洋地域の国々に観測データを提供し、各国の気象業務に貢献

世界気象機関(WMO)が推進する気象衛星観測網



「ひまわり」の観測範囲



国内的・国際的な取り組みのもとで評価・検討

国内の利用・研究コミュニティとの連携による利用把握・評価

(平成27年(2015年)以降)

世界気象機関(WMO)の専門委員会・専門家会合(毎年開催)において、利用者ニーズや衛星技術の動向をレビュー

(現在、2025年以降のWMO全球気象観測網中期計画を検討中)

気象衛星運用調整グループ会合(毎年開催)で衛星の運用・利用実績を踏まえ気象衛星の観測機能、データ提供方法等について調整

(平成27年(2015年)以降に、2025年以降のWMO全球気象観測網中期計画に基づき調整)

次々期衛星(平成41年運用開始)に向けて検討